

紙つどて



木の下に眠るという自然志向の墓で、跡継ぎを必要としない。一人でもいいし、夫婦、家族でも入ることができる。友達同士でも、故郷のご先祖様を連れて来てもいい。そして何よりも墓標が「桜」。さらに、子どもがいない人やお子さんに障がいがある親、また「おひとりさま」のために、家族に代わって死後の葬儀や事務手続きを担う「エンディング・サポート」という支援も備えている。

こんな理想の墓を「桜葬」と命名し、東京の町田市につ

桜の下に眠る墓

ころ。

「桜葬」は、シンボルの桜の下で、それぞれが個別区画

の使用権を持ちながら、それらが隣接して一つの墓をつくる形式の

墓地。住宅でいえばマンションのような集合住宅に似ている。一戸建ての墓なら、管理する家族が絶えれば草ぼうぼうになってしまう。しかし、一つの集合墓ならば容易に管理することができるというわけだ。これからはこういった墓が増えていくに違いない。

家族だけでは介護や看取り、死後の葬送を担うことが難しい社会。桜葬墓地は、桜を墓標として集まった隣同士が墓を核として縁を結ぶ。そこには家族を超えた「ゆるやかな絆」が生まれている。

(井上治代＝東洋大教授)

